

倫理カンファレンスを通して看護師の意識の変化



医療法人社団 五稜会病院
鈴木 美伸、鈴木大輔、吉野賀寿美、中島公博

はじめに

精神科急性期病棟において、看護師は治療の必要性を理解できずにいる患者を強制的治療を提供する中で悩み、倫理的な問題を抱えながら日々患者のケアを行っている。こういった葛藤やジレンマに陥る事により、看護師は目の前に直面する問題に向き合うエネルギーが低下、問題解決力が弱まってしまふ。

↓

倫理カンファレンスを導入

研究目的

倫理カンファレンスを行うことでスタッフ間が抱く倫理的ジレンマや葛藤の軽減に有効であったか検討する事とした。

研究方法


1. 対象: 精神科急性期病棟の看護師18名。
2. 期間: 平成X年Y月Z日～Z+7日
3. データ収集方法: アンケート調査および個別面接法によりデータ収集を行なった。
①アンケート調査: アンケート用紙は、スタッフが自由に思いを記載できるように自由回答方式の質問紙を独自に作成した。アンケート用紙をスタッフ全員に配布し、期限内に設置したアンケート用紙収集BOXに入れてもらうようにした。アンケート用紙は無記名とした。
②面接法: アンケート調査の回収率が低いため、アンケート調査終了後個別面接を行い、対象者の倫理カンファレンスに対する考えを知る取り組みを行った。アンケート調査の結果を踏まえ、看護師が答えやすいように構造式質問にする工夫を行った。
4. データ分析方法: アンケートの集計結果を内容ごとに整理し、分類した。また、面接法から得られたデータを単純集計し表にした。

倫理的配慮

研究主旨を説明し承諾を得る。データは個人が特定されないこと、研究以外で使用しないことを含め、対象の不利益が生じないよう配慮した。尚、本研究は当該施設の倫理委員会の審査を受け承認された。

結果 <アンケート・面接>

アンケート集計結果



『倫理カンファレンスを通して意識の変化があったか?』
変化があった 18名
変化がなかった 0名

『倫理カンファレンスに参加してよかったか?』
よかった 18名
悪かった 0名
どちらでもない 0名

結果 アンケート

Q1 看護実践を行う中で看護倫理の勉強会の学びを意識する場面はどのような場面ですか?

- 羞恥心への配慮。隔離においてなど色々
- 自分が事例にあげたケース
- 隔離や拘束、治療方針の相違の時など
- 患者さんが治療を拒否する場面かどうか関わったらよいか悩んだ
- 自分が勉強会に参加したテーマの時(コール対応)
- オンコール対応をできるだけよいようにしている。
- 患者さんの対応時。今まで行ってきた行動が、これでいいのだろうかと考えることが多くなったように思う。また、他者とも気軽に「これってどうかな?」と話し合えるようになってきていることは意識しながら行動することが多くなってるからだと思う。
- 荷物の持ち込みの可否を検討していく上で、倫理について深く考えることが多かったです

結果 アンケート

Q 2 看護倫理勉強会に参加してよかったと思う点はどのようなことですか？

➢ ちがう視点からみることで、
う一方から見ると違ってくる。
まを替える。悩んだ場面も
らう。場面でみんな考えて
てもらうことで解決できた。
➢ 他の方の意見をいろいろと
聞き、その考え方を吸収す
ること、ケアにつなげてい
た1つのテーマに対し様々
な視点から考えることが
できる。

➢ 心のモヤモヤや感覚がすっきり
する。他の人の意見や考え
を聞いて、自分の考えが
普通と意識せしめられる。
➢ 普段問題行動を繰り返す
自分や他の人の見返りも
参考になる。

考察・まとめ

- 1) 倫理カンファレンスを行った事で看護師の自己の意識や気持ちの
変化があり、有効であった。
- 2) 倫理カンファレンス実施の取り組みは、まさに他者と語り合うことで、
看護の振り返りや具体的な解決策と一緒に考えるといった共有の経
験。こういった経験を通し、一つ一つの実践が臨床知となり、より良い
看護の提供につながっていくと考える。